



ふるさと
“やまなし”に
生きる子供たちの

豊かな心の 育成のために

TSUBASA (No.53)
つばさ53号
山梨県教育委員会

みんなで見守ろう!山梨の子供たち

友達と協力するのは楽しい
95.1%

自分にはよいところがある
80.3%

いじめはどんな理由があってもいけないこと
97.6%

人が困っている時は進んで助けている
91.6%

学校に行くのは楽しい
86.6%

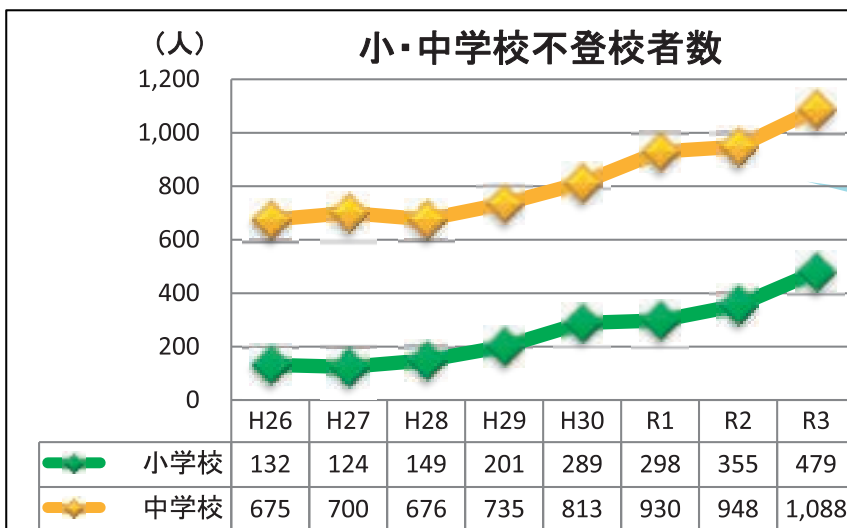
将来の夢や目標をもっている
82.7%



「令和4年度全国学力・学習状況調査『児童質問紙』」小学校結果より

いいじゃん!山梨!!

※「当てはまる」「どちらか」というと当てはまる」と回答した子供の割合が全国より高かった項目例



その一方で……

不登校児童生徒は増加傾向に

「令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果より

朝、起きられなくて体がだるいな……

学校に行こうとすると体調が悪くなるんだよな……

人間関係って難しい……

勉強が難しくわからない……

子供たちは漠然とした不安感を抱いています

「令和2年度 不登校児童生徒の実態調査」結果より



子供の変化を見逃さないように、
家庭・地域・学校が連携を！



子供の様子を学校でチェック！

- 乱暴な言葉を使うようになる。
- 「学校がつまらない」、「学校へ行きたくない」といった様子が見られる。
- 体の不調や頭痛、腹痛を訴えるようになる。
- 遅刻や早退が急に増え、断続的（特定の曜日や教科）に欠席するようになる。
- 授業中に集中力がなくなったり、生活態度が無気力になったりする。 など



子供たちの様子に目を配るとともに、「安心・安全な学級づくり」「わかって楽しい授業づくり」を心がけていくことが大切です。

みんな、一人で
抱え込まない

相談窓口

- 相談支援センター



- 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター



(メールの件名に「相談希望」、本文に連絡先、連絡方法の希望、相談内容を記入し、送信)



子供の様子を地域でチェック！

- 表情が暗い。
- 一人で下校している。
- 一緒にいても友達との輪に加わっていない。

いつもと違う様子が見られたら、学校へお知らせください。



子供の様子を家庭でチェック！

- 食欲……食べる量が普段より急に増えたり減ったりしている。
- 体調……倦怠感、疲労感、腹痛、頭痛、めまいなどを頻繁に訴えてくる。
- 睡眠……寝付けない、起きられないなど生活に支障をきたしている。
- 行動……暴言、暴力、ぼんやりしているなど「いつもと違う」様子が続いている。 など

睡眠、バランスのよい食事、軽い運動などをして、まずは「体調」を整えることが大切です。加えて、「困っていることがないか」、本人の話をしっかりきくことが大切です。日常生活に大きな影響が出ていない場合は見守ってあげたり、一緒に、もやもやした気持ちに共感して、寄り添ってあげたりすることも一つの方法です。



(協力:山梨大学 川本静香 准教授)

しなやかで豊かな心を育む

山梨県教育委員会教育長 手島 俊樹

グローバル化の進展や IT 技術の飛躍的な発展など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。このような中、子供たちには、社会の変化に主体的に向き合って関わり合い、多様な他者と協働しながらよりよい社会を構築し、幸福な人生を自ら切り拓いていく力が求められます。また、子供たちが自ら考え、これからの時代をよりよく生きていくために、しなやかで豊かな心を育てていくことが重要となります。

県では、「山梨県教育振興基本計画」において、「生きる力」を育む質の高い教育の実現を基本目標に、しなやかで豊かな心の涵養を目指した教育の充実に向け、様々な施策を推進してきました。その一つである「しなやかな心の育成プロジェクト」では、家庭・地域・学校が連携し、子供たちに自己肯定感を基盤とした他者を思いやる心や、困難や挫折に直面しても諦めない心など、豊かな情操を育む活動の充実を図っています。

本誌では、はじめに、家庭・地域・学校、それぞれにおける子供との関わり方についての提案をしています。これは、それぞれの立場で子供たちの変化を見逃さない意識をもつことが重要で、家庭・地域・学校が連携して子供たちを見守る体制をつくっていくことをねらいとしています。また、その後には道徳教育研究推進校における研究の成果や、家庭・地域との連携の上に立った道徳教育の具体的な実践事例を掲載し、各学校での今後の取組の参考となるようにしています。

子供たちが健やかに成長していくためには、学校だけでなく家庭や地域における生活も大切です。子供たちの生活基盤である家庭や地域が、学校と一体となって、ふるさと「やまなし」に生きる子供たちを見守り、しなやかで豊かな心を育ていけるよう、本誌を役立てていただくことを期待しています。

しなやかな心の育成プロジェクト

ファミ・コミ・スクール コミュニケーション

山梨県では、児童生徒の健全な成長に関わる問題の解決に向け、子どもたちに自己肯定感を基盤とした<自他を敬愛する心>、困難や挫折に直面しても<諦めない心>など、豊かな人間性を育むために、道徳教育の学びを深め、地域全体で子どもたちを育てていく環境づくりを進める取組を行っています。

「家庭（ファミリー）」でのプロジェクト

家読（うちどく）推進運動
～家庭での家族間の読書活動～

<生涯学習課事業>



家族で心も体もウォームアップ運動

<保健体育課事業>



「地域（コミュニティ）」でのプロジェクト

気配り思いやり マナーアップ運動

<高校教育課事業>



「学校（スクール）」でのプロジェクト

やまなし道徳教育推進事業

<義務教育課事業>

「家庭・地域・学校」関係プロジェクト

「しなやかな心の育成」ワークショップ
道徳教育推進会議

<保健体育課事業>

<義務教育課事業>

「こどもかいぎ」対話する力

子供の声を聴く

輪になって座り、答えのない問いについて対話する。経験を重ねる中で、自分の気持ちや他人の気持ちを知ったり大切にしたり、多様性を尊重する感性が育っている。接する保育者にとっても、子供たちの世界や心の内を知り、大人と子供の相互理解が深まったと感じる。



「考えるのが楽しい」「自分と違う意見も知るから楽しい」



<どうして生まれてきたんだろう？>
 「ママとパパに会いたかったから」
 「早く行かなきゃって！」
 「お腹の中は赤色だったよ」

<ママはどんな時に嬉しいと思う？>
 「コーヒー飲むとき」
 「大好き、ありがとうって言ったとき」
 「わたしが嬉しかったから」

<雨と雷どっちが好き？>
 「雨！水たまりであそべるから！」
 「傘に落ちる雨の音が好き」
 「雷、ゴロゴロの音が好き！」

認定こども園 わかば幼稚園

なんでもやってみよう

食べ物の大切さを知ろう

お米の栽培

体験を通して、主食であるお米は、どんな過程を経て、食卓に出されるのかを学んでいる。

年長児は、5月にもみ蒔きをして苗を育て6月に田植え、8月にお米の開花を観察し、10月に刈り取り、収穫祭で炊いて食べ、食べ物への関心・大切さを、友達と共有する。



味噌作り体験

3・4歳児は、大豆をポットに蒔き苗を作り畑に植え、その大豆も使って、友達と協力しながら、味噌挽（みそひき）を回し、味噌作りの体験をする。



0・1・2歳児もさつまいもの栽培を体験する。



自ら考え、よりよく生きようとする心豊かな児童の育成

～互いに伝え合い、考えを認め合う道徳の授業づくりを通して～

研究の概要

1. 自分との関わりの中で考え、互いに伝え認め合う活動を充実させた道徳の授業
2. 教育活動全体で道徳教育の推進活動

Point ① 自分との関わりの中で考えることを大切にする

自分事として考える教材提示



黒板シアターで教材提示を行い、前後で教材を分けて考えさせることで、子供たちに興味関心をもたせながら、登場人物の気持ちに自我関与させる。

価値に迫る導入

子供たちの身近な出来事や事前アンケートを活用して、本時のねらいへの問題意識を高める。



多面的・多角的な発問

自我関与を大切にしながら、答えが一つではない発問をする。



まとめ

終末は自分の生活に戻り、自分なりの納得解をもてるようにする。

Point ② 自己や他者の考えのよさに気付く

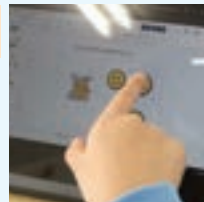
役割演技

自分だったらどうするか、自分の言葉で表現する。



フェイスマーク

どの子も登場人物の気持ちを表すことができる。



1枚ポートフォリオ



学習の振り返りを蓄積し、1年間の子供の変容を見取る評価として活用。全学年で使用している。

ペア・グループでの交流



考えの変容

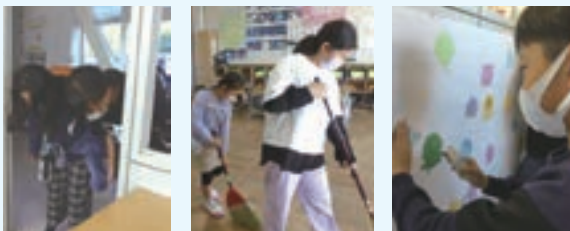
導入と終末でテキストマイニングを用いて、道徳的価値の変容を全体でも個でも見取る。



Point ③ 心豊かな しののめっ子を目指して

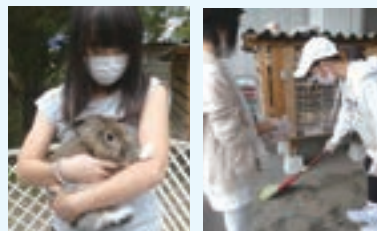
児童会活動

- ・全校あいさつ運動
- ・もくもく清掃
- ・感謝の気持ちを伝え合う「ハッピー水族館」



自然愛護

- ・学校内の「自然の杜」を活用
- ・うさぎの世話やふれあい



保護者・地域との関わり

- ・授業参観で全校道徳を実施
- ・育てた菊を、地域の方々へ配付



主体的・対話的で深い学びの実現

～授業改善と「考え、議論する道徳」の授業づくりを通して～

研究の概要

1. 4人グループやICTを活用した意見交換
2. 「学びの記録」を活用した振り返り

Point ① 4人グループやICTを活用した意見交換

1年生：「バスと赤ちゃん」 2年生：「キャッチボール」を教材とした道徳の授業づくり

深い学びへ向けた4人グループでの話し合い

「アナウンスするまでに、運転手はどんなことを考えていたろう」

個人でじっくり考え、できる限りワークシートに考えを書く。

グループで再検討し、ホワイトボードに話し合ったことをまとめる。

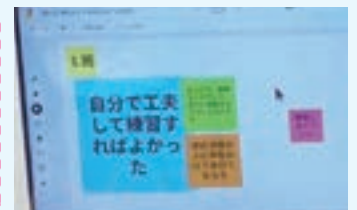


意見交換及び意見集約しやすくする Google Jamboard の活用

・キャッチボールをするかしないかを表したハートメーターを集約し、クラス全体の様子を表示。



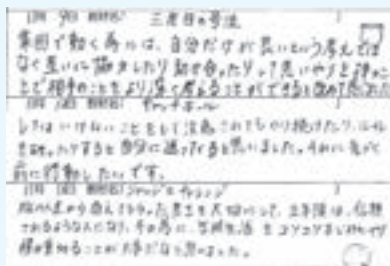
・明夫はどうすればよかったかについて、個で考えグループで話し合う。共感できる考えは大きく強調して表示。



Point ② 「学びの記録」を活用した振り返り

授業を通して感じたことや考えたことを「学びの記録」にまとめ、次へとつなげられるようにしている。

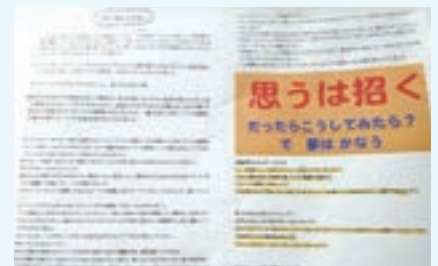
「学びの記録」 (1枚ポートフォリオ)



「学びの記録」を活用することで...

- ・自分の学びの足跡を残すことができる。
- ・自分自身の変容を捉えることができる。
- ・教師はこれまでの学習状況を把握し、成長の様子を評価することができる。

「学びの記録」の廊下掲示



Point ③ 道徳教育の充実

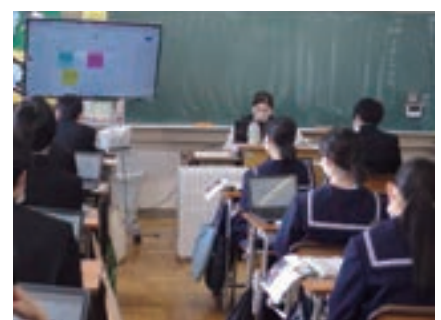
学びを支える学級力向上 (学級力向上プロジェクトの実践)



道徳的実践活動 (公民館や施設への花の進呈) (朝の美化活動・落ち葉掃き)



保護者への道徳授業公開 (5月・11月のオープンスクール)



主体的に考え、ともに学び合う児童の育成

～「考え、交流し合う道徳」の授業づくりを通して～

研究の概要

1. 「考え、交流し合う道徳」の授業づくり
2. 教育活動全体を通じた道徳的実践活動の推進

Point ① 問題解決的な学習を取り入れた授業づくり

見通す(導入)

道徳的価値を自分自身との関わりで捉えさせるための導入や教材提示の工夫

【事前アンケートの活用】

1年『ダメ!』
「あなたは、ともだちにいやなことをされたときに、やめてといえなかったことはありますか。」

5年『銀のしょく台』
「あなたは人を許したことがありますか。」

【めあての提示】

「いやだな、やめてほしいなおもったときに どうしたらいいのかな。」

「許す気持ちについて考えよう。」

【教材提示の工夫】

大型テレビでの挿絵の提示



長文教材の事前読みと登場人物、内容把握

考える(展開)

道徳的価値に対して自分なりの考えがもてるような主発問や問い返しの工夫

【ねらいに迫ることができる主発問】

「もしあなたがりすくんだら、くまくんにダメといえますか。」

「司教はどんな気持ちでジャンに銀のしょく台を渡したのでしょうか。」

【心メーター】

自分の考えを明確にし、友達の考えを知る。



【書く活動】



交流し合う(展開)

多面的・多角的な考えに触れさせるための手立てや交流方法の工夫

【ペア・グループの活用】

話し合いの形態
自由な立ち歩き



【ICT・ネームプレート・大型付箋の活用】

考えや立場、個々の変容を視覚化



【児童の発言を受けて、問題意識を引き出す問い返し、揺さぶり】

意見の相違、現実とのズレ、矛盾からの問い返し

深める(まとめ)

授業で考えたことの整理、教材を離れ、自分事として生活での実践などについて考えさせるための工夫

【事前アンケートの活用】

実生活を想起させ、自分事として考える。

【自分事として考えるための発問】

「いやだな、やめてほしいなおもったときにどうするか、りすくんにつたえよう。」

「司教の行動から学んだことや、自分の生活に生かしていきたいことを書きましょう。」

【板書の工夫】

児童の思考や授業の流れを視覚化



【ワークシートの工夫】

書くことの精選、吹き出し、挿絵



Point ② 学習環境の充実、道徳的実践活動の推進

学級集団づくり

【安心して学び合える学級集団づくり】



【Q-Uの活用】

全校でQ-Uを実施。居心地のよい学級づくりのため、児童一人一人への配慮に役立てる。

言語活動・読書活動の充実

【心の広場】・心があたたかくなる言葉・友達の良いところ発見など



【図書集会・しおりデザインコンテスト】

たくさんの本と出会い、豊かな心を培う。



家庭・地域との連携

【三世交代交流会】

父母、祖父母との交流



【ボランティアによる読み聞かせ】

道徳科の趣旨を踏まえた授業改善

～中心的な問いと生徒相互の意見交流に視点を当てて～

研究の概要

1. 自分のこととして考えるための中心的な問いの工夫
2. 生徒相互の意見交流の工夫

Point ① 問いの工夫：「何を考えさせるのか」を明確にする



- ・考える視点を明確化する。
- ・考えるに値する問いを創造する。

自分と向き合い考える。

Point ② 意見の交流を通して、自分の考えを深める



自分のこととして考えることで、意見交流の意義が生まれる。
意見の交流を通して、生徒自身が納得解を見付ける。

I C T機器も活用し
交流を深める。

Point ③ 道徳の授業での学びと他教科での学びとの往還



いのちについて考え
自分の体の変化や
精一杯生きることに
ついて考える。



冒険家から、夢をもつことの
大切さや、今、普通だと思う
ことが貴重であることなどを
学ぶ。

体験的な学びを通して、伝統や文化に
ついて考える。

心豊かな子どもの育成

～自他との対話の中で考えを深める道徳の授業づくりを通して～

研究の概要

1. 対話の中で考えを深める道徳科授業づくり
2. 小学校・中学校・地域が連携した道徳的実践活動

Point ① 対話の中で考えを深める授業の工夫



◇考え、議論するための工夫

- ・授業の流れがわかる板書の工夫
- ・全員の考えを見える化
Googleドキュメント
Google Jamboard
- ・自分の心を伝えるメーター
- ・役割演技



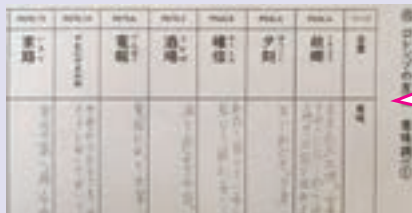
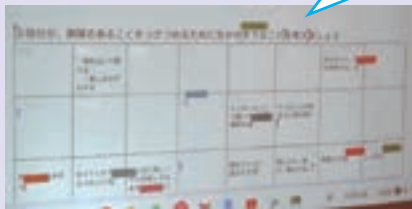
5年「思いやりの心」Jamboardを使った親切メーター

6年「光をともした魔法の薬」ドキュメントを使って意見把握

1年「だれも見えていない」教師との役割演技



心豊かな子ども



6年「ロレンゾの友達」意味調べ



6年「光をともした魔法の薬」チーム・ティーチングでの連携



2年「オレンジ色の木のみ」板書



3年「絵葉書と切手」板書

心の数直線



4年「クラスたいこう 全員リレー」心の数直線

◇長文資料の事前学習

- ・教材文が長すぎて1時間では扱いきれない！言葉の意味がわからない！
- 資料や児童実態に応じて家庭学習での意味調べや読み込み



◇チーム・ティーチングでの連携

- ・ねらいを共有化し、机間指導への協力
- ・子供たちの気づきをメモにして担任へ

Point ② 小中連携・地域連携を通じた学び



◇西桂町教育協議会の取組

学ぶ力づくり研究部

- ・小中連携の研究
- ・小中一貫した連携記録の作成



学級づくり研究部

- ・児童、生徒、保護者へのアンケート調査及び分析

授業づくり研究部

- ・道徳の授業研究
- ・小中での参観授業の交流

◇小中学校が連携した道徳的実践活動

小中あいさつ運動

小中学校の代表者が小学校や中学校を訪問し、一緒にあいさつ運動を行う活動。あいさつを通じた心の交流に取り組んでいる。



6年三ツ峠登山（秋の校外学習）

三ツ峠中腹にある八十八大師の前かけ交換を小中学生が協力して行っている。前かけを心を込めて作るのは中学2年生。そして、その意志を受け継ぎ、前かけを交換するのは、小学生の役割。郷土の史跡を大切にすることを共有している。



主体的に学び、思いやりの心を大切にする生徒の育成

～考え、議論する授業実践を通して～

研究の概要

1. 対話の中で考えを深める道徳科授業づくり
2. 小学校・中学校・地域が連携した道徳的実践活動

Point ① 生徒の実態（課題）を意識した授業づくり



子供が生まれたときの親の気持ちを議論した後、自分に宛てられた**家族からのメッセージ**を読む。



地域の駅舎の**リノベーション計画**に**参画**し、郷土を愛する心について議論している。



道徳アンケートの結果をもとに身近な動物の命について議論している。



職員のグループ協議では、**生徒の様子**を主として議論している。

Point ② 小中連携・地域連携を通した学び



○地域に根ざした道徳的実践活動

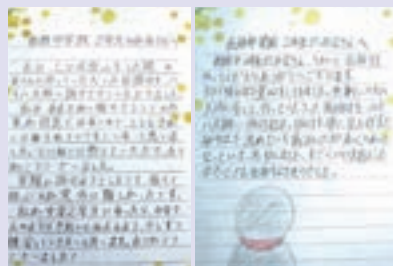
道路横断後の、ドライバーに対する丁寧なお辞儀は、生徒が上級生の姿から学び自発的に行っている。この朝の光景から、地域の人々の幸せな1日が始まる。



○小中学校が連携した道徳的実践活動



夏季休業中に、小中学校職員が**合同講演会**に参加し、**発達段階を踏まえた**道徳教育について学習した。



地域の人が40年以上前より作っていた三ツ峠八十八大師の前かけを、中学2年生が家庭科の授業で製作する。その前かけを小学6年生が秋の校外学習で古いものと交換する。小中学生が連携して地域の**伝統文化を継承**している取組。

小学生が中学生に宛てたお礼の手紙

自然や人と共生し、主体的に社会参画できる生徒の育成

学校の紹介

1. 創立105年を迎える峡東地区の拠点校
2. 校訓「至誠無息」のもと、知・徳・体のバランスのとれた人材の育成を目指している

実践① 道徳性を育む「SDGs」探究活動

本校では総合的な探究の時間を中心に、持続可能な開発目標である、「SDGs」について全校生徒が理解を深めている。特に1年生に対しては、企業、新聞記者、大学生、スポーツクラブ運営者などによる幅広い分野の講演会や校外見学を年間を通して計画し、環境問題や人権問題をはじめとするSDGsの17の目標について継続的に学んでいる。それらの目標が相互に関連し合い、同時に解決が可能な場合も多いことなどを知ることができる。さらに、探究活動の中で「私たちができること」をグループで考えてまとめ、発表したり廊下に掲示したりして共有し、全校生徒がSDGsの目標を意識できるようにしている。



実践② 地域の暮らしを支える活動への参加

規則やマナーをしっかり身に付け、交通安全や犯罪防止についての意識を高めることを目的とした講演会を行うとともに、地元の警察署や団体と連携して各種の啓発活動に参加している。立場の違う幅広い年代の人たちとの活動を通し、今高校生としてできることや将来自分たちが引き継いでいかなければならないことを考えていく。また、祭りやボランティア活動など地域の行事に積極的に参加し、少子高齢化で衰退する地域の活性化に取り組んでいる。



全国地域安全運動



20歳未満飲酒防止キャンペーン



一宮町金田区ふれあい公園祭り



実践③ マナーアップ週間、PTA合同街頭交通指導・あいさつ運動

本校では、年間5回のマナーアップ週間を設定しており、部活動所属部員による生徒昇降口でのあいさつ運動と、生活・防災委員による駐輪場での駐輪指導を行っている。また、9月20日、21日には、PTA理事との合同街頭交通指導・あいさつ運動が行われた。学校周辺5か所の横断歩道等で指導にあたる理事と教員が生徒と元気にあいさつを交わし、交通安全、マナーの向上を呼びかけた。



学校の紹介

本校は韮崎市にある肢体不自由特別支援学校である。隣接するあけぼの医療福祉センターと連携し、教育と医療・福祉が密接に結びついた教育活動を行っている。今年度は、小学部から高等部まで60名の児童生徒が在籍している。「いきいきと」を校訓とし、子供たちそれぞれの実態に応じた教育課程を編成し、まわりの人や物とのやりとりを豊かに広げ、「生きる力」を育んでいくための道徳教育実践に取り組んでいる。



実践① 小学部の取組

国際理解

準ずる教育課程では、教科書を使い、「自分自身のこと、集団生活、社会との関係、いのちや自然」などの学習をしている。生活経験の少なさや友達関係の薄さもあり、実感を伴って理解することが難しい内容では、ロールプレイや教科書のイラストを紙芝居風にアレンジして、イメージしやすいように配慮している。国際理解では、外国籍の友達の国について紹介し合ったり、海外生活の経験をもつ先生のお話を聞く機会を設けたりしている。



実践② 中学部の取組

学んだことを一生懸命、まとめている様子

準ずる教育課程では、道徳の教科書等を使い、自主や自律、生命の尊さ、思いやりや感謝の心、伝統や文化の尊重等をねらいとして学習に取り組んでいる。生命についての学習では、音源を使って赤ちゃんの泣き声を聞くことで、声の大きさや激しさに驚き、生命の強さを感じることができた。授業の最後に振り返りの時間を設けることで、その日に学んだことがどんなことであったか自分なりに整理することで理解を深めた。



実践③ 高等部の取組

ロールプレイの一コマ

知的代替教育課程では、ロールプレイングや読み物学習を通して、生徒の実態に合わせた課題やテーマに取り組んでいる。ある学級では、毎日5～10分の時間を設け、「相手の気持ち」や「社会のルール」、「気持ちのよい挨拶」等をテーマにしたロールプレイを教師が行い、生徒に○×で回答してもらったり、どうすればよいかを考えて話し合ったりしている。また、月の目標を決めてその振り返りを行うことで、自分自身を見つめ直す機会にしている。



道徳科の評価について

道徳科の評価のポイント！

- 道徳科の学習活動における取組状況を
- 多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかの視点で
- 成長の様子を受けとめて認め、励ます個人内評価として
- 大きくくりなまとまりで



詳しくはこちらをチェック！

評価の基本的な考え方
「NITS 独立行政法人
教職員支援機構」
校内研修シリーズ

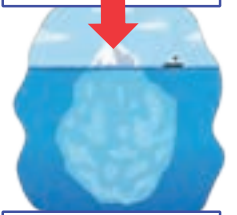


道徳科のねらいは「道徳性を養う」ことなのに、なぜ、学習における取組状況

内面的資質である道徳性が養われたかどうかを見取るとは困難です。そこで、道徳性を養うために行われる学習活動で、どのように学んでいるのか、学習状況及び成長の様子を継続的に見取り、評価します。



学習活動
(見えやすい)



道徳性
(見えにくい)



「学習状況及び成長の様子」というのは、具体的にどのような姿を見取ればよいのでしょうか。

ポイントは「**一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか**」「**道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**」です。



一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか

- ・道徳的な問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え考えようとしている
- ・自分と違う意見や立場を理解しようとしている
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている
- ・他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めている
- ・道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え、考えようとしている

例えば、具体的な授業の中で・・・

サムを受け入れる様々な理由について、考えたり発言したりしている。

(高学年「ブランコ乗りとピエロ」)

おおかみを自分に置き換えて考え、親切にしたときの気持ちよさを考えている。

(低学年「はしのうえのおおかみ」)

親切にすること自分の立場からだけでなく、相手の立場からも捉えて考えている。

(中学年「心と心のあくしゅ」)

ひろ子がとるべき行動について、話し合うことを通して友達とはどうあるべきか考えを深めている。

(中学年「絵はがきと切手」)

元さんのとった行動に対して、きまりの意義、生命尊重、思いやり等様々な道徳的価値と関連させて考えている。

(中学校「二通の手紙」)

和枝が感じている自分自身に対して誠実に行動することの難しさについて、自分事として捉えて考えている。

(高学年「のりづけされた詩」)



具体的にはどのように評価していけばよいのでしょうか。



まずは、**児童生徒の学びを蓄積**していくことが重要です。

例えば



ワークシート



ノート



1人1台端末



座席表



板書

蓄積した情報を基に、年間や学期といった**時間的なまとまりの中で**次のように評価します。

例えば、児童生徒の学習の振り返りから・・・

第〇回「〇〇〇」



第〇回「父の言葉」

自分が「私」だったら、女の子に声をかけられないと思います。声をかける勇気がないからです。でも、相手のことを思って、勇気をもって声をかけることが大切だと思いました。

第〇回「〇〇〇」



第〇回「ひきょうだよ」

自分が「ぼく」の立場だったらゆうすけたちが怖くて何もできないかもしれません。でも、たかひろの気持ちを考えると、ゆみのようにきちんと注意することが大切だと思いました。だめなことはだめ、という気持ちを忘れずに行動できるようになりたいです。

子供の成長の様子を評価する例

登場人物を自分に置き換えて生活を振り返ったり、様々な登場人物の立場に立って考えることで様々な見方から物事を捉えたりし、今後のよりよい生き方について考えを深めていました。

⇒子供の成長の様子が感じられるが、やや抽象的であり、特徴が見えにくい。

個人のおよさや頑張りを評価する例

「ひきょうだよ」では、社会正義の実現について、登場人物を自分に置き換えて考えることで、正しい行動をするためには、自分の意志を強くもつことが大切であると気付いていました。

⇒保護者にとっては学習の様子がイメージしやすいが、一つの授業の評価であり、成長の様子は感じられない。

2つの文例の長所を生かして、指導要録、通知表の特質に合わせて工夫することが大切！

授業中の教師の声かけやワークシートなどへのコメントも、子供の成長を認める大切な評価ということを意識して取り組んでいきたいですね。



「道徳の授業づくりについて」
「つばさ52号」より

あとがき

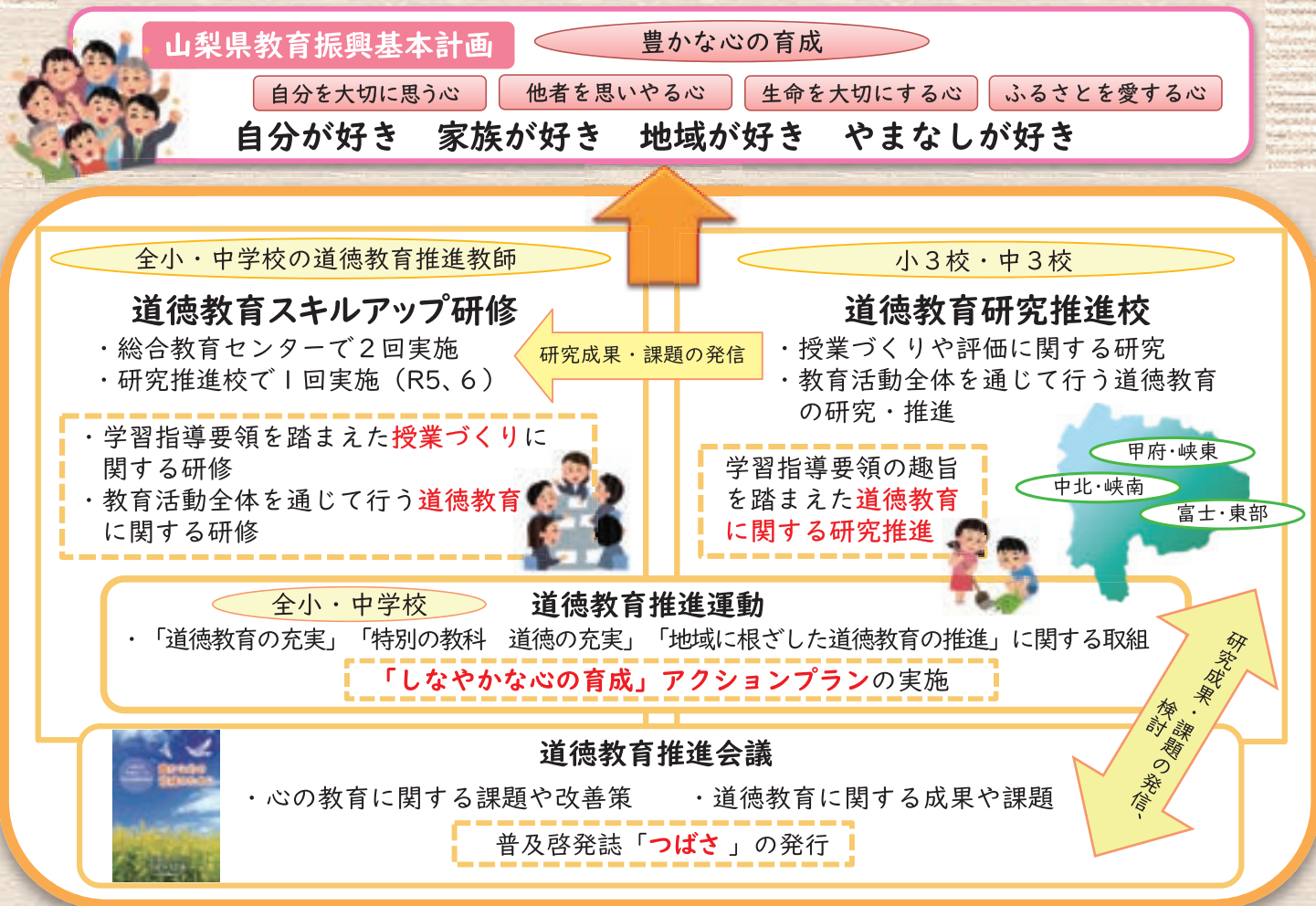
道徳教育推進会議委員長

比志 保

長引くコロナ禍、戦乱や温暖化、格差の拡大等先の見えない時代になって参りました。学校現場では不登校やいじめが増えています。不確かな時代を生きるには、たくましい豊かな心、とりわけよりよく生きるための基盤となる道徳教育の充実が重要です。

平成30年度より全面実施された「特別の教科道徳」は、ほぼ定着しましたが、現場に若い先生方が増えている中で、その指導方法や評価等についての悩みは尽きません。新たに指定された「道徳教育研究推進校」では授業づくりや評価、道徳的実践活動などについて精力的に研究していただきました。初年度にもかかわらず内容が非常に充実しており、その取組に頭が下がります。また、今年度より「つばさ」が県教委のホームページ上に掲載され、いつでも誰でも閲覧できるようになりました。本号が多くの皆様に活用され、山梨の心の教育、わけても道徳教育が一層充実されることを願っています。

やまなし道徳教育推進事業（令和4年度～令和6年度）



道徳教育推進会議

◎委員長 ○副委員長

◎比志 保 元中央市教育長	○川本 静香 山梨大学	保坂 三雄 チーフスクールカウンセラー
井口 太 認定こども園わかば幼稚園	小松 秀夫 山梨県PTA協議会	井上 亜紗美 山梨県高等学校PTA連合会
大村 健一 東雲小学校	一瀬 栄政 富沢小学校	久保寺 正史 西桂小学校
松田 昌樹 西中学校	渡部 一司 須玉中学校	渡邊 正也 西桂中学校
吉村 実 大國小学校	小泉 道仁 山梨高等学校	高橋 弘之 あげぼの支援学校
山田 睦子 甲府市教育委員会	前島 光一郎 生涯学習課	白倉 俊樹 中北教育事務所
小林 みずほ 峡東教育事務所	成瀬 貴弘 峡南教育事務所	三浦 淳 富士・東部教育事務所
今村 恵美子 山梨県総合教育センター		

（敬称略）

自分が好き 家族が好き 地域が好き やまなしが好き

TSUBASA (No.53)

つばさ53号

令和5年3月

問い合わせ先

山梨県教育委員会

義務教育課 TEL 055-223-1764
 高校教育課 TEL 055-223-1766
 特別支援教育・
 児童生徒支援課 TEL 055-223-1752